

(大阪東南部)

大阪・四天王寺旧境内遺跡

とのなかつた四天王寺の北東辺に位置する。約七五〇 m^2 を調査し、奈良・江戸時代までの遺構・遺物を検出した。

所在地 大阪市天王寺区四天王寺一丁目

調査期間 一九九五年(平7) 一月～三月

発掘機関 (財)大阪市文化財協会

調査担当者 豆谷浩之・平田洋司

遺跡の種類 寺院跡・集落跡

6 遺跡の年代 飛鳥時代～江戸時代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

四天王寺旧境内遺跡は大阪市の中央部、上町台地上に位置する。

四天王寺は飛鳥時代に建立されて以来、被災と再建を繰り返して現

代に至る数少ない寺院である。その間に周辺には門前

町が形成され、大坂の賑わ

いの一つの中心となってきた。

(財)大阪市文化財協会で

は一九八五年からこの遺跡

の発掘調査を行なってきた。

今回の調査地はこれまで

あまり調査の行なわれること

れ近世初頭に埋められた堀がある。この堀からは大量の遺物が出土し、寺域を復原していく上でも重要な定点となつた。近世の遺構は大きくは豊臣期～江戸時代初期と江戸時代中～後期とに分かれ、その間の遺構は稀薄である。遺構には溝・柵・井戸・土坑などがある。出土遺物には陶磁器・土器・瓦・木製品・金属製品・石製品・人骨がある。そのうち木製品には漆器椀・容器・付札・箸・人形・杓子・下駄などがある。墨書のあるものは三点あり、いずれも一八世紀前半の陶磁器とともに土坑から出土した。

8 木簡の釈文・内容

土坑SK-117

(1) 金山納豆

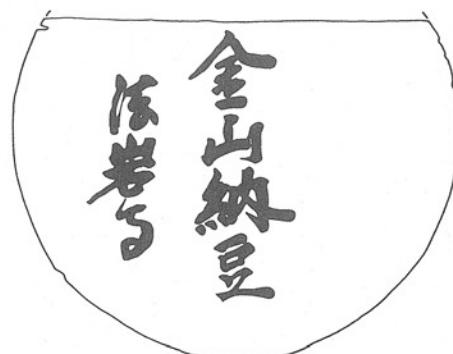
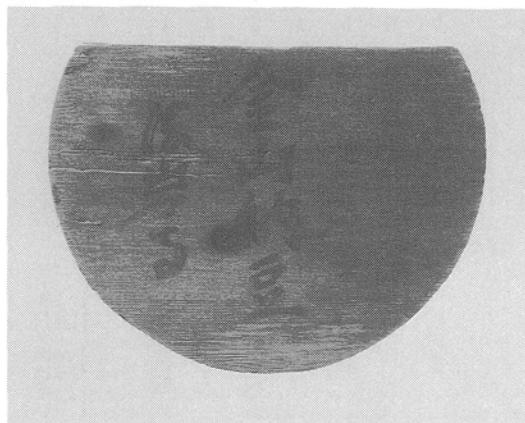
土坑SK-118

(2) 「。□□庄屋□」

「。あち入善右衛門」

縦133×厚3 061

125×26×5 051



(1)

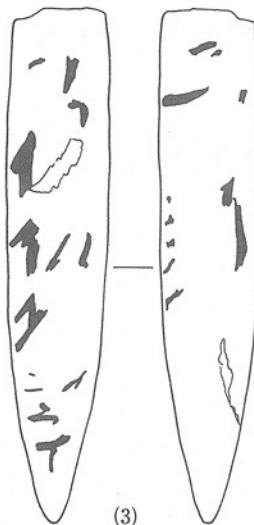
(3) □ □

136×27×4 051

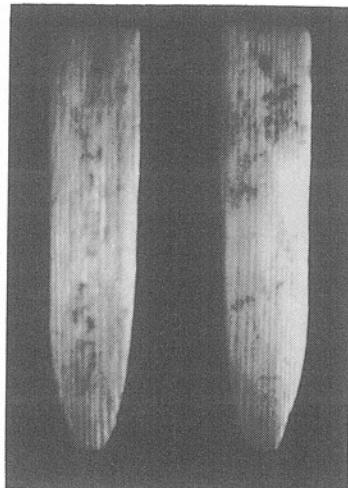
(1) は容器の蓋と考えられる。(2) は上端近くに孔をもつ。表面左行の未判読部は魚偏を用いたと思われる字を含んでいる。(3) は肉眼ではわからないが、赤外線テレビカメラにより両面ともに何文字分かの墨書が確かめられた。内容は不明である。

9 関係文献

(財) 大阪市文化財協会『四天王寺旧境内遺跡発掘調査報告』I (一
九九六年) (佐藤 隆)



(3)



(2)



(2)